

富士山&温泉三昧ツーリング

幹事様のご指名(下命?)により、今回ツーレポなるものをシタタメてみます。さて、ぼつーと天国にいる気分であっていたので、何かから書き起こせばよいやら・・・2012年5月26日(土)、朝から快晴! その日まで不安定な天候が続いていましたが、今回の中島御大の企画を祝福するかのような晴れ間が覗きました。出発1時間前、談合坂 SA ではすでに何人かの参加者が参集、一様に笑みをほころばせています。みなさん、気持は同じようです。事務局長挨拶、幹事挨拶・企画趣旨説明、ゲスト紹介を終えて、10:00。今回はもうすぐ生誕 86 歳をお迎えになる古本翁を擁して、BMW を愛して懲りない面々のいざ出陣です。中央道、一団きれいに隊列をなして無難に走破。スバルライン入口にては立ちゴケのアクシデントもありましたが、気のついたメンバーがいち早く駆けつけ、現状の回復に努めました。クラブの心根の温かさが感じられる一コマでした。「スバルラインは自由走行」という幹事様のご配慮発言にもかかわらず、ときおり背中を見せるバス、車に阻まれて走行は一進一退(ホントに退くわけではないけれど、雰囲気イメージしてください)。ついでに霧が出てきて、寒さとも向き合う走行となりました。五合目駐車場は満車、乗用車は空き待ちということで、幹事様のお知恵よろしく、SC 車は一つ手まえの駐車場で降輪。しばしのタンデムを経て、流れ良く昼食へと辿りつきました。みなさん、お腹が空いていたようです。ほうとうご飯、美味でした。lecker! 富士山を背に、本栖湖の見える休憩所でしばし休憩、記念撮影。湖反対側へと周る県道で井形さんのバニアケースが接触で落下するというアクシデントがありました。



画像はそのときの様子を写したのですが、メンバーが真摯な表情で事態の収束に当たった様子が見えかけます。「個よりも全体」というクラブの温かさが再度にじみ出たひと時でした。予定にあった「もちや」への立ち寄りを諦め、本栖湖反対側にて視界に映る風景と千円札を交互ににらめっこ。みなさん心躍らせていたためか、散り散りとなり、時間も押した頃、事務局が警報を鳴らしてメンバーを呼び集めるということにもなりました。

それからは快適な山道を一路宿へと。宿はなんとも風光明媚な山の奥にぼつんとあって、いかにも静寂を極めた地に自然に溶け込んでみえました。荷物を下ろすと多くの方はすぐに露天風呂へと。湯のなか、湯の後、夕食までのひととき、あちこちでバイクにちなんだ話題を楽しむ姿が見受けられました。



夕食は幹事様のかゆい所にまで手が届くご配慮で、ビールを浴びながら堪能。あまつさえ、幹事様からは BMW 特性?の素晴らしいプレゼントがありました。その後、その場での二次会となりました。最後まで残ったのは、中島さん、井形さん、湯本さんと佐藤だったでしょうか？中島さんの口からは話題があちこちと脈絡なく振りまかれ、飛沫を放ちます。それに負けじと振られた輩が応戦。井形さんは姿勢を正して歌舞伎の口上までさせられる始末。その姿を眺めながら、なぜか、私はお笑いコンビを組んだ中島さんが、とある番組でつっこみコントを演じている姿を彷彿としてしまいました(褒めているつもりですが、お気に障ったら御免なさい)。とにもかくにも、それぞれの方の仕事での老練な内輪話が聞けて、それはそれは面白可笑しく興味深いものでした。

翌朝、みなさん起床が早く、日の出のころから玄関前で談笑の音が響きました。私はレポーターを引き受けた立場から、「妙蓮の滝」を画像に収めなくてはならないと思いたち、独り出かけたのですが、途中自然に礼を欠くことをしてしまいました、ご不快な思いをされた方、ご免なさい。

朝食までの時間はとても長く感じました。皆さんも待ち遠しかったようで、御櫃はだいたい空になっていたようです。その後、古本さんからのお志があり、それを受け取った方々の笑顔がこぼれるなかで記念撮影、解散式を経て、みなさま其々の帰途に就きました。

今回のツーリング企画は「富士山」という日本人の心を舞台に華を添えたものとなりました。それもこれも幹事様の熱いお人柄に拠るもので、感謝の気持ちに満たされたのは私ばかりでなかったかと想像いたします。

このツーリングを機にまたしばらくは仕事に励めそうです。そんな機会を与えてくださったみなさまに深く感謝いたします。ありがとうございました。

総走行距離約 350km 燃費 21km/l

文責 「前世はドイツ人」

今回のレポート 会員NO 68 佐藤幸三